

本センターが当番校として、10月24、25日第57回国立大学附置研究所・センター長会議、第2部会が千葉市内で開催されました。

10月24日、京成ホテルミラマーレにおいて、第2部会長の長谷俊治教授（阪大蛋白研所長）により第57回国立大学附置研究所・センター長会議が行われました。本会議には、文部科学省研究振興局学術機関課、課長木村直樹氏、同専門官山本武史氏、同大学研究所・研究予算総括係員小島雄一氏、国立大学附置研究所・センター長会議会長大志万直人教授（京大防災研所長）、国立大学31附置研究所・センター長及び事務職員多数が参加しました。大学附置研究所・センターの運営、連携等に関わる諸問題について討議が行われました。また、木村課長から、「国立大学をめぐる動き」および「平成26年度科学技術関係概算要求の概要」について講演ならびに質疑応答が行われました。

10月25日、京成ホテルミラマーレにおいて、第2部会シンポジウム「超高齢社会に忍びよるカビの脅威」が行われ、附置研・センター長会議関係者および一般市民を含め115人の参加者がありました。また本シンポジウムに関しては、24日の朝日新聞（朝刊）と日本経済新聞（夕刊）でも報道され、一般市民の方も多数参加されました。

